

## 小学校教諭

私の学級の子たちは、週に1回以上は、必ず図書館に行って本にふれています。図書館に通うたびに、「先生のおすすめの本を教えて！」「私はこの本が大好きだから先生も読んでみて！」「今日は、いつか図書館に行ける時間がある？」「僕、学校司書になりたい」「やっぱり、図書館はいいなー」と、嬉しそうに子どもたちは話しています。子どもたちが「図書館に行きたい！」と思える図書館経営をして下さる学校司書がいてくださるからこそ、子どもたちは、本を手取る喜びを感じることができます。

子どもたちの心を豊かにしてください学校司書の力がこれからも必ず必要です。学校司書がいる図書館は、子どもたちにとって大切な場所です。

## 小学校教諭

特別支援のクラス児童で、感情コントロールが厳しく、イライラして授業が受けられない時、図書館で読書をする事によりクールダウンでき、落ち着きを取り戻し、再び授業が受けれる状態になっています。

また、特別支援児童は、コミュニケーションを取る事を苦手とする場合も多いため、図書館を訪れた時、常に同じ学校司書が居て下さる事でとても安心した時間を持てています。

## 小学校教諭

30年以上、小学校教員として働いてきました。

私には、教育現場で働く同僚としてとても尊敬している人が2人います。その中の1人が、学校司書のA先生です。彼女はずっと、嘱託という雇用の中で働いています。

私が、彼女と初めて出会ったのは20代のころでした。最も教育困難校として知られる小学校でした。そこには、教育環境のかけらも整わない劣悪な家庭生活を送る子どもたちもたくさんいました。そんな厳しい生活から、学習に向き合うことができなくなくなり、ともすればドロップアウトしていきがちなたくさんの子どもたちの大好きな場所が、A先生のいるあたたかい図書館でした。

どんなにしんどいときでも、A先生が待っていてくれる。認めてくれる。優しく声をかけてくれる。今日も、明日も、あさっても、来年も、再来年もA先

生が待っていてくれる。そんな安心できる居場所に、どれだけ多くの子どもたちが救われてきたことでしょうか。

自己肯定感の極めて持ちづらい子どもたちにとって、そんなほっとできる、安心して素直になれる場所は、学校にそれほど多くはありません。継続して子どもの心を見守る人がいる、それは、学校の機能としても必要ではないでしょうか。

そして、図書館は、単なる居場所ではありません。立派な教育施設です。家庭の教育機能不全のために、クラスで暴れ、担任に悪態をつくようなすきんだ学校生活に陥らざるをえなかった子どもたちさえ、図書館では、誰とも、競うことなく知的好奇心を満たし、自分の世界を広げていました。そこでは、A先生の見守りの中でいつの間にか本好きになってしまう奇跡がいつも見られました。子どもの心をとらえてやまないA先生には、教員としてもうらやましいばかりの才能を感じます。また、それだけの努力を続けてこられた源には、子どもたちへの深い愛情を感じます。

学校の中にある、図書館は、単に本がいっぱいある場所ではいけないと思います。子どもたちのためにカー杯働こうと思いつけてくださる方が、いつも待っていてほしいです。それが、校内のすべての子どもにとって、優れた教育となっていくと思います。

私は、岡山市に対して、すべての学校司書の方々が、正規雇用であることを求めます。継続雇用され、仕事量に見合うだけの賃金が保障され、正規雇用であることなくして、素晴らしい図書館教育もディープラーニングも期待できません。これからも、子どもたちの教育を考え続けてくださるA先生のような先生がたくさん生まれますように。岡山市の子どもたちのために。